

# 4 国際基準への対応について（外国語（英語コミュニケーション力））

- <提言>
- スルーガイドについては、通訳案内士 又は CEFR B2以上 を要件化
  - アクティビティガイドについては、専門的な英単語や緊急時対応等を身につける研修を実施
    - ・ 既存の英語能力資格・試験を活用してガイドの英語レベルを区分した上で、研修を実施
    - ・ 「英語対応可能」レベル（通訳等可能）と「日常会話可能」レベル（簡易な応答可能）の2区分を設定  
このうち「日常会話可能」レベル（CEFR B1以上）をアクティビティガイドに推奨
  - 語学資格の有効期限については、定期的に語学を使っていれば能力は落ちないため更新不要で、資格取得後の実務経験がより重要との意見 → このため、語学力証明のための資格再取得は求めないが、アクティビティガイドについて、研修修了（前述）による英語能力の確認を推奨

<各資格・検定試験とCEFRとの対照表（文部科学省／平成30年3月公表資料より）>

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230   200			9.0   8.5				
C1	199   180	3299   2600	1400   1350	8.0   7.0	400   375	800	120   95	1990   1845
B2	179   160	2599   2300	1349   1190	6.5   5.5	374   309	795   600	94   72	1840   1560
B1	159   140	2299   1950	1189   960	5.0   4.0	308   225	595   420	71   42	1555   1150
A2	139   120	1949   1700	959   690		224   135	415   235		1145   625
A1	119   100	1699   1400	689   270					620   320

CEFR: Common European Framework of Reference for Languages（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）

欧州評議会が開発された、外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられる指標。その言語を使って「具体的に何が出来るか」という形で言語力を6段階で表す。

**英語対応可能レベル（B2以上）**

⇒スルーガイドに求めるレベル【要件】  
（研修の受講は可とする）

**日常会話可能レベル（B1）**

⇒アクティビティガイドに求める  
レベル（研修修了を推奨）

※TOEIC L&R/S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する

## <提言>

- **北海道サステナブル ガイディング トレーニングプログラム**
  - ・ 当プログラムは、持続可能な観光の理解を深めるための基礎研修と位置づけ、修了証の取得をもってバッジ付与の対象とする。
  - ・ また、当該プログラムの修了にとどまらず、目標として推奨する国際資格等として、「GSTC公式プログラム」の修了や、「Leave No Trace トレーナー資格」の取得という道筋を示した上で、それぞれの国際資格等を取得した者についてもバッジ付与の対象とする。

## 北海道サステナブル ガイディング トレーニングプログラム

註) 米国発祥の、環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境倫理プログラム

目的	ATGSにおいて重要性が高いサステナビリティ(持続可能性)基準への理解度を深める	
研修内容	日本版「持続可能な観光ガイドライン」(JSTS-D)をメイン教材として制作されたテキスト(ガイドブック)による座学研修及びフィールドワーク	
講師	Leave No Trace (註)トレーナー又はマスターエディター 並びに 同等の資格を有する者	
研修期間	2日間(1日目: 座学 + 2日目: フィールドワーク) [別途トライアルを実施予定 ①10月下旬 ②10月下旬～11月上旬 ③12月上～中旬]	
プログラム	<1日目: 座学 持続可能な観光の国際基準の考え方> ①持続可能なマネジメント ②社会経済のサステナビリティ ③文化的なサステナビリティ ④環境のサステナビリティ	<2日目: フィールドワーク ※地域別に詳細設定> ・Leave No Trace 7原則の理解 ・Leave No Trace 指導法の理解 ・Leave No Trace の指導実習 ・Leave No Trace の教育体系及び資格 ・Leave No Trace Japanに関する情報
効力	研修を参加したことを示す「修了証」を発行 ※北海道より発行	
有効期間	3年間	

<提言>

- **ATGSの「ファーストエイド」に対応する既存資格**については、Wilderness Medical Societyから認定されているWilderness Medical Associates Japan（**WMAJ**）、Wilderness Medicine Training Center（**WMTC**）及び**SOLO Japan**を対象とする。
- 北海道アウトドアガイドは上級救命講習等の修了を必須としているため、過渡的措置として各分野におけるファーストエイドのレベルを以下のとおりとする。なお、各分野のガイドが保有するファーストエイドのレベルは、**現状維持ではなく推奨レベルまで引き上げていく必要がある**ことから、**将来的に見直し**を検討する。

対象分野		国際資格			国内講習
		WFR	WAFA / AWFA	WFA	上級救命講習等
アクティビティガイド	道 アウト ドア ガイド	自然		☆	○
		山岳（夏山）		☆	○
		山岳（冬山）		☆	○
		カヌー・カヤック ※河川・湖沼		☆	○
		ラフティング		☆	○
		トレイルライディング（乗馬）		☆	○
		スキー（オフピステ）【JMGA】		☆	○
		スキー（バックカントリー）【JMGA】	☆		○
		サイクリング【JCGA、JCTA】		☆	○
		SUP【SIJ】		☆	○
スルーガイド			☆	○	

☆推奨(目標)レベル ○必須(最低限)レベル

※アクティビティ各分野の職能範囲については、フィールドがそれぞれ異なるため指定しない。

<提言>

- 北海道ATガイドフィールドトレーニング  
 (ATGS「安全管理／自然・歴史・文化／顧客・グループ管理」に応じたフィールドトレーニング)
  - ・ スルーガイド要件：上記研修の修了
  - ・ バッジ付与の基準：上記研修の修了＋複数の研修講師による修了チェックの合格

北海道ATガイドフィールドトレーニング

目的	「安全管理／自然・歴史・文化／顧客・グループマネジメント」(ATGSコア・コンピタンス)への理解を深め、ATツアー催行にあたっての実践的な知識・技術等を体得する	
研修内容	ISO・ATGSやATTA制作のテキスト等を参考とし、1日(座学のみ)又は2日間(1日目:座学+2日目:フィールドワーク)の研修を実施 ※受講者はいずれかを選択	
場所	道内ATコースの一部又は全部を予定	
講師	北海道マスターガイド、ATTAアンバサダー等 また、フィールドワークでは参加者による相互チェックを実施	
プログラム	<1日目:座学> ATツアーにおける基礎知識およびATGSコア・コンピタンスの理解 ①ATツアー催行における基礎知識や役割分担 ②コア・コンピタンスの理解 ③安全管理・救急法について ④2日目のフィールドワークについて	<2日目:フィールドワーク> ・ATツアーにおけるガイドを実践できているか、実例を見ながらフィールドトレーニングを実施 ・チェックシートを活用したガイディングの相互チェック ・研修後のフィードバック
対象者	スルーガイドを目指すガイド及びアクティビティガイド	
効力	2日間のプログラム修了者:「修了証」を発行 2日間のプログラム修了後、テストを受験する方:2日目に理解度チェックを行い合格基準を満たした方に「バッジ」を付与 ※不合格者は再受講	
有効期間	3年間	



チェック方法	評価チェックシートの大項目3つ「安全・危機管理」、「顧客サービス・グループマネジメント」、「自然・歴史・文化のインタープリテーション」を○×△で判定
合格基準	・○3個=合格 ・×が1つでもある場合は不合格、再受講 ・△がついた項目は評価者(2名以上)同士で議論し、○または×の判定を行う
評価者	・2名以上 ・ATコースにおける実務経験のあるガイド

<提言>

- ・ 市場や旅行会社からの評価への要請 ⇒ 別途、顧客推奨度調査・旅行会社評価導入 【再掲】
- ・ その他、有識者からの意見等を踏まえ、以下のとおり、道に期待する施策等について提言

WG等からの意見・その他の論点	北海道に対する期待（提言）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客からの評価制度が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客推奨度調査</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旅行会社等からの表彰制度のようなものが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旅行会社からの評価制度</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稼げるガイドの道筋をつけて欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ATのコンセプトや本ガイド制度の趣旨の周知（メッセージ）</li> <li>・ 送客に向けた施策</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイドジャンボリ（研修会・技能体験会）開催が必要</li> <li>・ ガイドにスポンサーが付きやすい工夫の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ATガイドのネットワーク化(会員組織化等)</li> <li>・ ガイド間の情報共有促進（スポンサー獲得ノウハウ等）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ATのガイディングにおいて自然に関する解説等が重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他分野のガイドに対する道自然ガイドの取得推奨</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外のマーケットへのPR（資格・AT自体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インバウンド回復に向けた北海道ブランドの発信</li> <li>・ 観光振興機構等と連携した効果的なプロモーション</li> <li>・ DXの活用（ATポータルサイト開設・オープンバッジ活用）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイド制度の環境教育への寄与</li> <li>・ ガイド資格保持者の公共施設入場料無償化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光部局と環境・文化・教育担当部局との連携（道立博物館・学芸員等との連携）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AT知識習得のための研修</li> <li>・ アクティビティガイドの語学力を維持向上の場の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイド制度試行後、裾野の拡大や認定後のスキル向上等、幅広い人材育成・確保の取組</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道アウトドアガイド検定受験のメリット</li> <li>・ 各種資格取得に対する補助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度趣旨の周知・理解促進</li> <li>・ 観光振興機構等と連携した各種支援</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しいガイド制度の円滑な試行・運用開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AT部会の継続的な目利き（民間組織による運営含む）</li> <li>・ 速やかな要綱等の整備（指導・降格・取消制度含む）</li> <li>・ DXの活用（ポータルサイト・オープンバッジ活用） <span style="float: right;">〔再掲〕</span></li> </ul>

タテの広がり  
への組み込み  
(市場評価)

## 6 中期的な展開について

区分	令和4年度 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)
ガイド 新制度	審議会答申 (9月) 道案パブコメ (10月) 要綱等整備 (~3月)	<b>試行開始 (4月~)</b> (道直営)	試行制度運用	試行制度検証	制度 (本格) 運用
人材育成	各種研修等	各種研修等 (内容適宜見直し)	各種研修等 (内容適宜見直し)	各種研修等 (内容適宜見直し)	各種研修等 (内容適宜見直し)
誘客・ 送客	プロモーション ふるさと納税	<b>ATWS (9月)</b> 同検証 (~11月) プロモーション等	プロモーション等	プロモーション等	プロモーション等
分野の 目利き	AT部会 (1回程度)	AT部会 (1回程度)	AT部会 (1回程度)	AT部会 (1回程度)	AT部会 (1回程度)
組織体制	組織体制検討・調整	会員組織設立 民間運営検討	会員間の情報共有 民間運営への移行?	会員間の情報共有 民間運営	会員間の情報共有 民間運営
道アウトドア 計画		<b>中間年(指標見直し)</b>		<b>計画見直し</b>	
<b>5期計画 (R3~7)</b> 					<b>6期計画 (R8~)</b> 